



令和3年度 水稻生育診断情報 No.5

(令和3年8月20日)

(情報作成) 滋賀県農業技術振興センター
近江八幡市安土町大中 516 (TEL:0748-46-4391)

(今年度最終情報です)

現在の生育状況

◎作況調査の「みずかがみ」「コシヒカリ」の登熟は、7月下旬～8月上旬は順調に進んだが、8月中旬からは低温寡照の日が続き、やや遅れている。

「みずかがみ」の成熟期は、平年よりやや遅れる見込み。

◎県内ほ場の5月上旬移植「みずかがみ」では、8月25日頃に成熟期を迎える見込み。

管理・収穫のポイント

◎葉色に惑わされず、穂(籾)色をしっかりと確認し、籾黄化率85～90%の時期に収穫する！(刈り遅れによる品質低下に注意！！)

◎根や葉の活力維持のため、収穫5日前まで落水しない！

◎中生・晩生品種では今後も十分な水が必要なので、こまめな水管理を行う！

◎これから出穂するほ場では、穂いもち発生に注意して、いもち病が発生しやすいほ場を中心に防除対策を行う。

◎斑点米カメムシ類対策の防除は、ほ場をよく観察し、適期に行う。

1 気象の経過と予報

(1) 気象の経過 (彦根気象台観測、平年は過去10年間の平均)

要素		最高気温	最低気温	日照時間	降水量
7月	下旬	高い	高い	かなり多い	かなり少ない
8月	月上旬	やや高い	平年並	やや少ない	やや少ない
	中旬	かなり低い	かなり低い	かなり少ない	かなり多い

注) 気温 <±0.5℃:平年並、±0.5～1.0℃:やや高い(低い)、±1.0～2.0℃:高い(低い)、±2.0℃<:かなり高い(低い)

日照時間 <±5hr:平年並、±5～10hr:やや多い(少ない)、±10～15hr:多い(少ない)、±15hr<:かなり多い(少ない)

降水量 <±10mm:平年並、±10～20mm:やや多い(少ない)、±20～30mm:多い(少ない)、±30mm<:かなり多い(少ない)

(2) 近畿地方1か月予報 (8/21～9/20までの天候見通し) 【大阪管区気象台8月19日発表】

■近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ない。

近畿太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。

■向こう1か月の平均気温は、平年並の確率40%。

■週別の気温は、1週目、2週目ともに平年並の確率50%。3～4週目は平年並の確率40%。

2 生育状況

【農業技術振興センター 水稲作況調査による。表1、表2および後掲グラフ参照】

- 「みずかがみ」の出穂期は7月24日（平年より2日遅い）、「コシヒカリ」の出穂期は7月27日（平年と同日）であった。
- 「みずかがみ」の成熟期は平年よりやや遅れる見込み。

8月18日現在の生育状況



「みずかがみ」
(出穂後25日)



「コシヒカリ」
(出穂後22日)

表1 令和3年(2021年)水稲作況調査 生育調査結果

滋賀県農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

基準日 月/日	品種名	草丈(cm)				茎数(本/m ²)				葉色(SPAD値)				主稈葉数(枚)			
		本年	平年	比	前年	本年	平年	比	前年	本年	平年	比	前年	本年	平年	較差	前年
7/10	みずかがみ	74.0	79.3	93	81.8	510	522	98	453	40.2	40.6	99	43.2	12.4	12.4	0.0	12.7
	コシヒカリ	76.3	80.1	95	79.6	567	564	100	508	36.5	37.8	97	40.1	11.6	11.7	-0.1	12.1
7/20	みずかがみ	-	-	-	-	-	-	-	-	37.5	38.0	99	40.4	13.0	13.2	-0.2	13.6
	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	37.5	38.0	99	40.4	12.7	13.0	-0.3	13.4
7/30	みずかがみ	-	-	-	-	-	-	-	-	34.4	37.1	93	41.9	13.0	13.3	-0.3	13.6
	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	38.5	38.3	101	41.5	13.0	13.3	-0.3	14.0

※移植日：5月10日(播種日：4月20日)。栽植密度：18.5株/m²、植付本数は3本/株。

※平年は、H25～R2年(8年間)の平均値。

表2 水稲作況調査 生育ステージ

品種：「みずかがみ」

滋賀県農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

生育期	本年	平年	較差	前年
幼穂形成期	7月1日	6月29日	2日遅い	6月29日
出穂期	7月24日	7月22日	2日遅い	7月24日
成熟期	未	8月24日	—	8月25日

品種：「コシヒカリ」

生育期	本年	平年	較差	前年
幼穂形成期	7月5日	7月3日	2日遅い	7月4日
出穂期	7月27日	7月27日	同日	7月30日
成熟期	未	8月31日	—	9月3日

※移植日は5月10日(播種日：4月20日)。

※平年は、H25～R2年(8年間)の平均値。

3 今後の管理

(1) 適正な水管理

- 登熟期に水が不足すると稲が十分に光合成できず、白未熟粒や胴割粒の発生、籾の充実不足が助長されるため、出穂前後各3週間は常時湛水管理を行う（図1）。
- 落水時期の目安は収穫の5日前であるが、収穫作業に支障がない限り出来るだけ遅らせ、根や葉の活力を収穫直前まで維持させる（図2）。

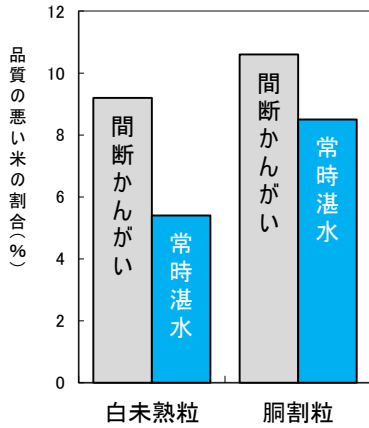


図1 出穂前後の水管理と白未熟粒、胴割粒との関係
(滋賀農技セ 2006年「コシヒカリ」)

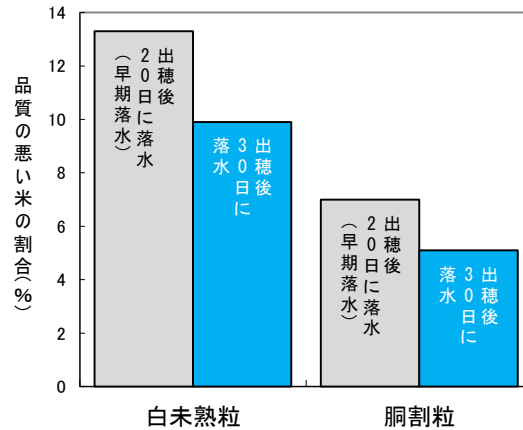
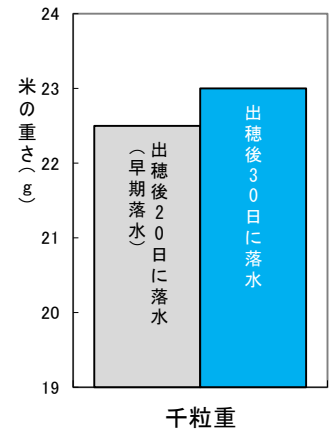


図2 落水時期と白未熟粒、胴割粒、千粒重(米の重さ)の関係
(滋賀農試湖北分場2004年「コシヒカリ」)



↓

出穂前後の常時湛水で
白未熟粒、胴割粒が減ります

↓

収穫直前まで入水すると、白未熟粒、
胴割粒が減り、収量も増加します

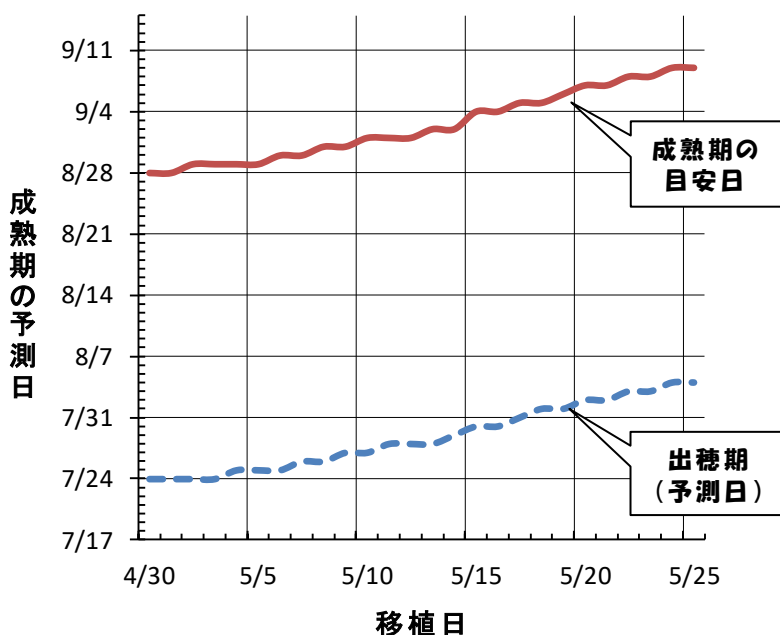
(2) 適期収穫

- ほ場内で出穂のばらつきが大きいところは、葉の色が黄化していなくても、籾は先熟している場合があるので、収穫時期が近づいたらほ場に入り、穂（籾）色をしっかりと確認して収穫適期を見極め、刈り遅れないよう注意する。
- 収穫適期は、穂の先端から3～4本目の枝梗につく籾が全て黄化した頃で、籾黄化率85～90%の時期である（目安は、籾黄化率50%程度で収穫7日前）。
- 出穂後の気温が高い年は登熟日数が短くなる傾向にあるので、早生品種（「コシヒカリ」等）だけでなく、中生品種（「秋の詩」等）でも、出穂後30日を過ぎたら収穫できるよう準備を整えておく。

☆ 過去8年の登熟日数（水稻作況調査データより）

年次 \ 品種名	みずかがみ	コシヒカリ
H25年～R2年	32～34日	32～37日

【参考】「コシヒカリ」の成熟期の目安



注)栽培管理支援システム(農研機構)を用いて8月17日時点の成熟期を予測。
 場所は近江八幡市安土町大中(作況調査ほ場)を設定。
 近江八幡市安土町より気温が高い地域はこれよりも早くなり、低い地域はこれよりも遅くなる。

【適期収穫のポイント】 ★葉色に惑わされず、ほ場に入って穂をしっかり確認する。

収穫適期の目安
 ①穂の先端から3～4本目の枝梗につく籾が全て黄化した頃
 ②籾黄化率85～90%

★収穫7日前の目安：籾黄化率50%程度・・・収穫適期判定板を活用

適期収穫で調割粒を減らそう!
収穫適期判定板

使い方

- ほ場全体を見て、平均的な場所に入ります。
- 穂に判定板(黄板)の色がついている部分をあてます。
- 黄色く熟した籾(モミ)の割合を見て収穫時期を判断します。(判定板の色は熟した籾の色目安です。)

※葉色に惑わされず、穂の黄化率を確認してください。

特に8月～9月の気温が高くなった場合は要注意

※近年、出穂後(8月～9月)の気温が高く、黄熟日数が遅くなってきています(下の表参照)。
 ※最も短い年は、「コシヒカリ」で30日、「日本晴」で32日、「秋の晩」で34日となりました(※2019年)。

年次	品種名	コシヒカリ	日本晴	秋の晩
平成3年～12年		37日 (34～40日)	41日 (34～48日)	—
平成13年～20年 (最近10年間)		33日 (30～37日)	38日 (32～40日)	39日 (34～44日)

近江米振興協会

収穫7日前頃 (籾黄化率50%程度)

収穫適期 (籾黄化率85%)

調べたい穂を当てて籾の黄化率を調べます
 この数が熟した籾として100%の目安です

上図はイメージです

(3) 病虫害防除

8月3日発表の「病虫害発生予報第8号」

(<http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/yosatsu/yosatsuzyouhou/yohou/> または
[県 HP 組織から探す](#) > [農政水産部](#) 病虫害防除所 > 発生予察 > 発生予察情報 > 病虫害発生予報) を参照

予報第8号より抜粋 中生、晩生品種対象の情報です

① 穂いもち (発生時期：平年並、発生量：やや多)

→【8月18日付けで防除情報第8号「穂いもちの防除は確実に！」を発表しています！】

■防除情報第8号を参照のこと。

■「秋の詩」「滋賀羽二重糯」は、発生しやすいので特に注意する。

■粉剤や液剤で防除する場合は、防除適期を逃すと著しく効果が低下するので、必ず穂ばらみ期～出穂期に防除する。

■耐性菌を生じやすいので、同一グループ薬剤の連用を避ける。

② 紋枯病 (発生時期：平年並、発生量：やや少)

→【ほ場での発生を確認しています】

■前年の発生の多かったほ場では特に注意する。

■発生が多いほ場では、薬剤が株元によくかかるように散布する。

③ 斑点米カメムシ類 (発生量：やや多)

→【8月6日付けで防除情報第6号「斑点米カメムシ類を確実に防除しましょう」を発表しています！】

■防除情報第6号を参照のこと。

■畦畔や雑草地にカスミカメムシ類（アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ）の発生が多い場合は、乳熟期頃（出穂7～10日後）に防除する。

■出穂期に大型斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、イネカメムシなど）が確認できるほ場では、糊熟期頃（出穂10～20日後）にも防除する。

■農薬散布後も水田内に斑点米カメムシ類の発生が多い場合は、収穫前日数、使用回数に注意の上、追加防除を行う。



病虫害トピックス ～トビイロウンカ編⑤～



【防除の目安は？】

- ・トビイロウンカの飛来の有無が重要なポイントとなります。そのため、要防除の目安（要防除水準）は『「8月中旬の払い落とし調査で、株当たり1頭以上」確認されれば、即防除が必要』（県病虫害防除基準）となります。なお、調査時にはほ場内数カ所を調査することが重要です。

【防除上の注意点】

- ・ほ場内数カ所、特に水田中央部付近の株元をよく観察し、トビイロウンカの早期発見と、確認後の的確な防除の実施が重要です。防除においては以下の点に注意しましょう。

○液剤・粉剤散布の場合

トビイロウンカは株元に多いので、薬剤が株元まで届くよう散布する。

○粒剤・豆つぶ剤の場合

薬剤の使用上の注意に記載されている水深に湛水後散布し、散布後7日間は落水、かけ流しをしない。

○育苗箱施薬剤による防除

ウンカ類に卓効のある育苗箱施薬剤を使用し、トビイロウンカの飛来初期の増殖を防ぐことが可能。しかし、早期栽培（4月下旬～5月上旬移植）の場合、トビイロウンカが飛来～増殖する時期まで薬効が保てるか不明ですので、本県では油断なく飛来を警戒することが重要となります。

- ★8月18日現在、本県へのトビイロウンカの飛来は確認されていませんが、今後も病虫害防除所等の情報に留意しましょう。もし発生が確認され、防除する際には、農薬のラベルに記載された登録の有無、収穫前使用日数や使用回数をかみならず確認するとともに、ほ場周辺への薬剤飛散防止に努めましょう。

【参考サイト】

農業技術振興センター

<http://www.pref.shiga.lg.jp/g/nougicenter/>

病虫害防除所

<http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/>

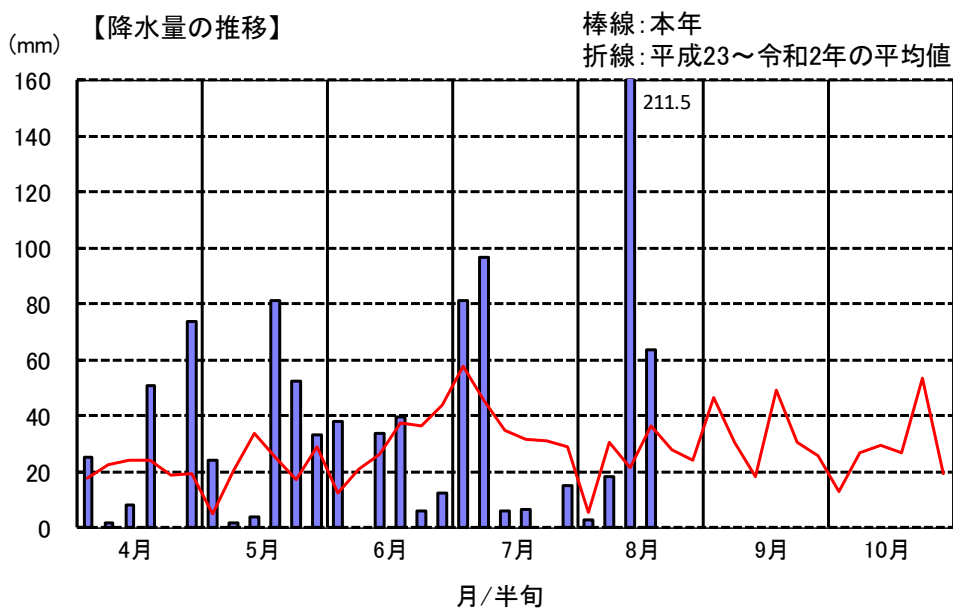
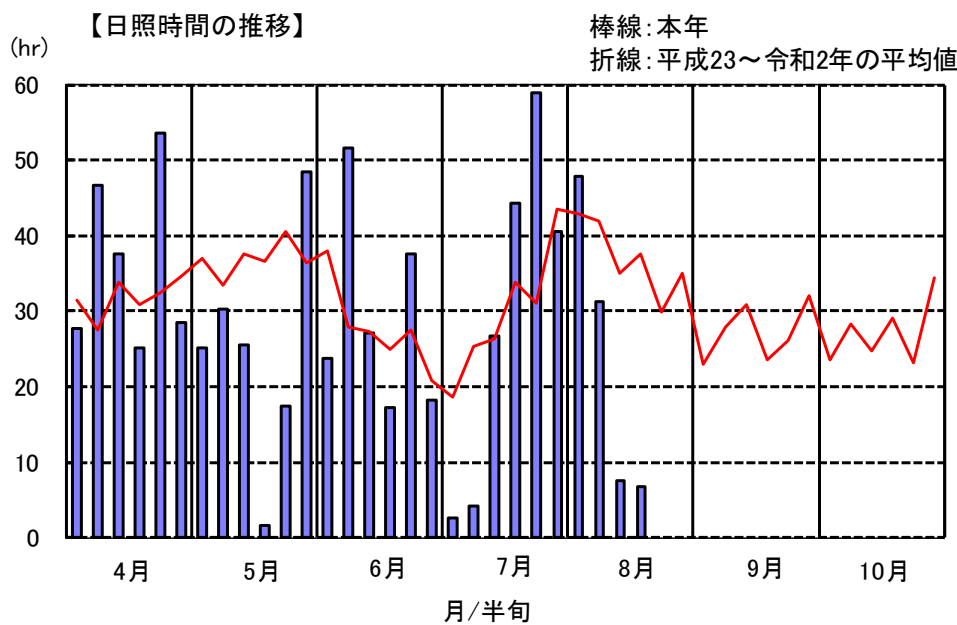
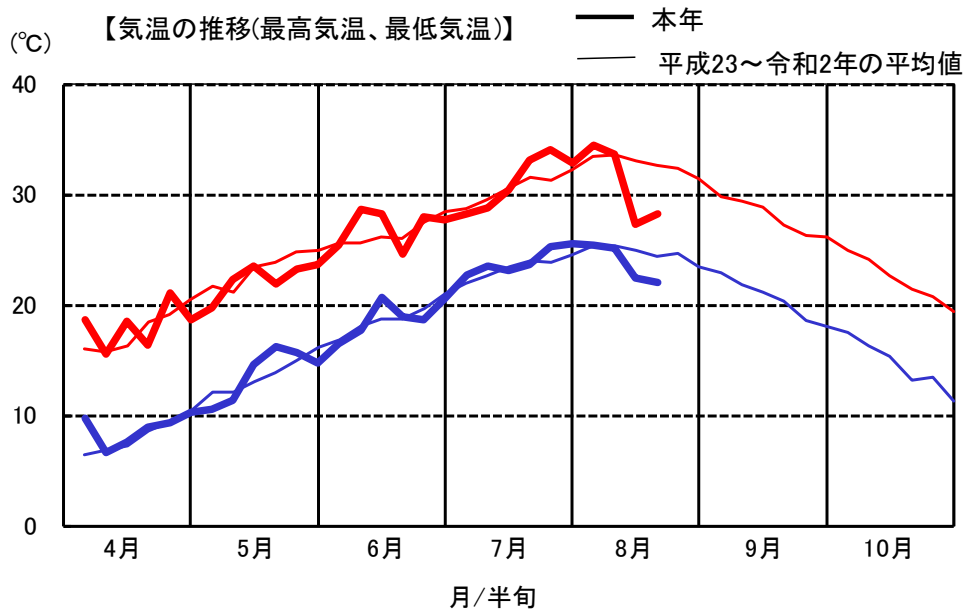
彦根地方气象台

<http://www.jma-net.go.jp/hikone/>

早期天候情報

<http://www.jma.go.jp/jp/soukei/>

令和3年(2021年) 水稲作期間半旬別気象図(彦根気象台観測)



注) 平年は平成23~令和2年の平均値。

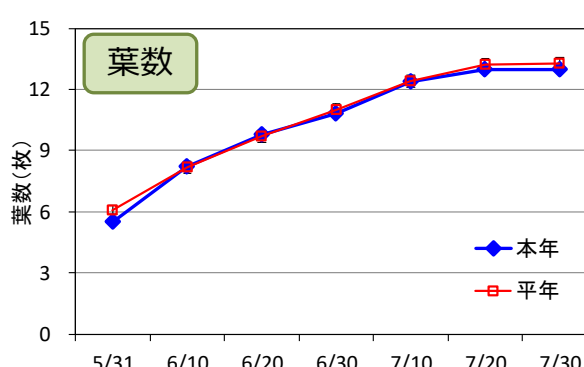
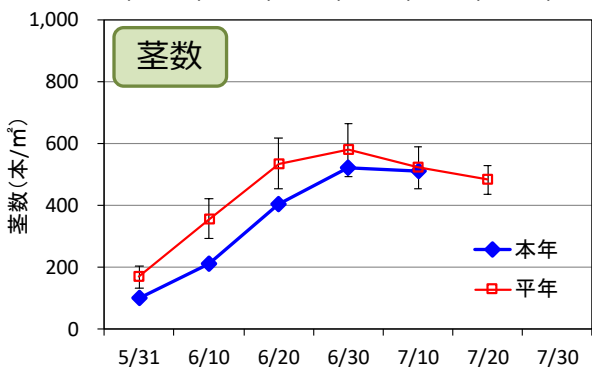
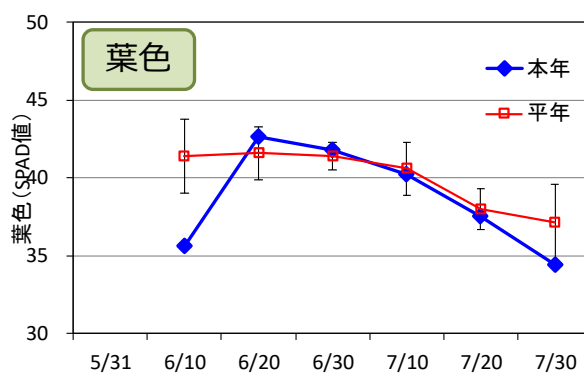
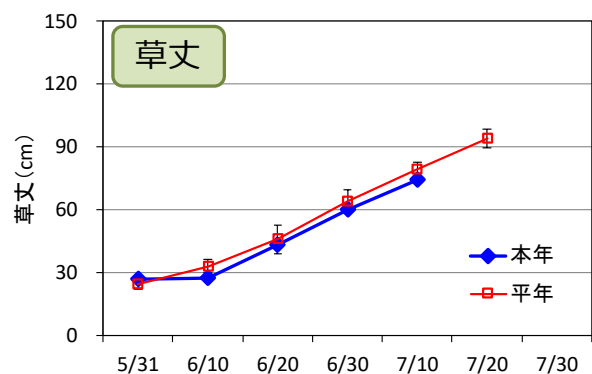
5月,7月,8月,10月の第6半旬の降水量および日照時間は6日間の合計値。

令和3年(2021年) 水稻作況調査 生育調査結果

農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

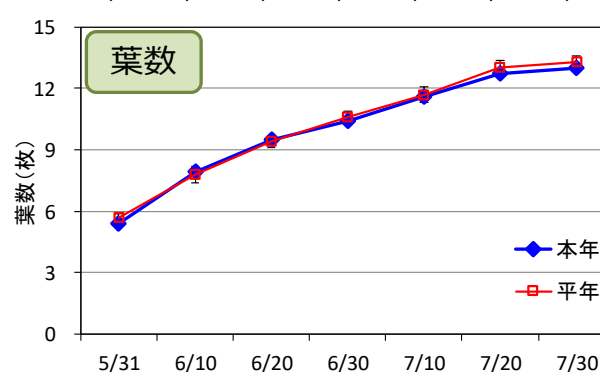
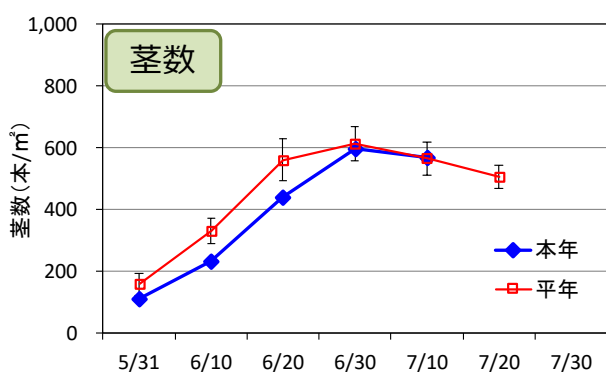
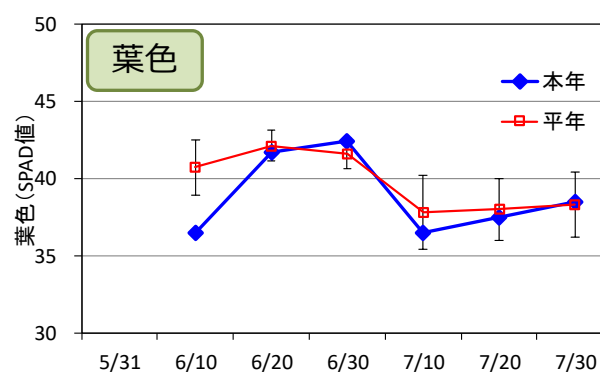
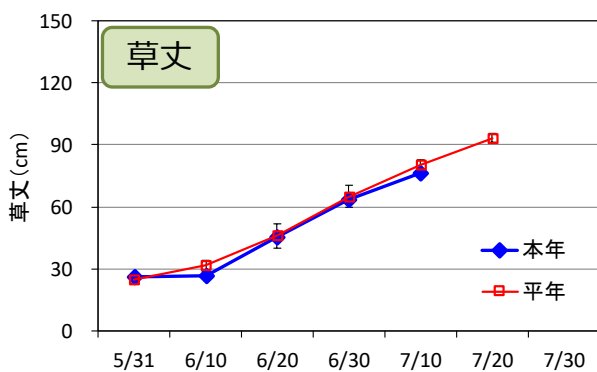
みずかがみ

播種:4月20日、移植:5月10日、栽植密度:18.5株/㎡、植付本数:3本/株



コシヒカリ

播種:4月20日、移植:5月10日、栽植密度:18.5株/㎡、植付本数:3本/株



注)平年は過去8年(H25年~R2年)の平均値。